様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２９ 日現在

機関番号：１２７０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2012～2014
課題番号：２４３３０１０９

研究課題名（和文）戦後アジアの経済発展の環境史的研究－資源・エネルギー貿易の構造分析を中心に

研究課題名（英文）A Study of the Environmental Foundations of Economic Development in Postwar Asia: With Special Reference to Resource and Energy Trade

研究代表者
杉原　薫（Sugihara, Kaoru）

政策研究大学院大学・政策研究科・教授

研究者番号：６０１１７９５０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、第二次大戦後のアジアにおける高度経済成長の資源・エネルギー的基盤を検討し、その地球環境への影響について考察した。成長アジアが近年の世界経済の「化石資源」化を主導したこと、自由貿易と開発主義がそれに大きく貢献したこと、同時に、アジアがエネルギー節約型技術をリードし、化石資源や食糧の自由な貿易によって高度成長と都市化を実現したことが、水やバイオマス・エネルギーのような非貿易財に近い資源の枯渇を招いたことも明らかになった。これらの因果関係を歴史的に実証することは簡単ではないが、問題の所在と研究課題が明らかになり、一部のテーマについて実証研究を進めることができた。

研究成果の概要（英文）：This study attempted a historical investigation into the question of how resource and energy had been secured during the high-speed economic growth in Asian countries in the postwar period, and its impact on global environmental sustainability. We found that the demand for fossil fuels and other resources from growth Asia were mainly responsible for the growth of the fossil-fuel-based world economy. We also identified that the principle of free trade and ‘developmentalism’ contributed to Asia’s high-speed growth. At the same time, while both imports of fossil fuels and food and the industrial competitiveness through the development of energy-saving technology were essential to Asia’s growth and urbanization, they also caused the scarcity of other essential resources, such as water and biomass energy, which are relatively difficult to trade. This study identified these key issues and produced some case studies.

研究分野：経済史

キーワード：環境経済史　エネルギー　アジア　貿易　発展径路

１．研究開始当初の背景

「東アジアの奇跡」は、世界の資源・エネルギー需要にいかなる変化を巻き起こしたのか。原油の域外（主として中東）依存は高度成長期の日本で始まり、他のアジア諸国にも広がった。地域大の成長が進むにつれて他の資源・エネルギーもしだいに域外への依存を強めた。成長はまた、アジア域内でも森林伐採や公害などの環境問題を起こしてきた。他方、早くからエネルギー節約型の技術の発展に熱心だったのもこの地域である。

いったいこうした変化は、地球環境・エネルギー問題の発生・展開にどのような役割を演じたのか。それは、世界の他の地域に環境負荷を加えることによって、これまで先進国が主導してきた地球環境の持続性の維持、あるいは環境と経済の均衡発展径路の模索といった問題に、いかなる変化を促したのか。そして、そうした問題の解明に取り組むためには、どのような学術的知識が必要とされるのか。これが本研究開始時、背景にあった問題意識である。

方法的、人脈的、組織的な背景としては、研究代表者が拠点リーダーを務めたグローバル COE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」（2007－2012 年）における文理融合型の学際研究、および科研基盤 B「『化石資源世界経済』の興隆と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較史的研究」（2009－2012 年）の二つのプロジェクトから継承したものが大きい。

２．研究の目的

本研究の目的は、第二次大戦後の東アジア、東南アジア（そして最近の南アジア）における高度経済成長の資源・エネルギー的基盤を世界経済史の観点から検討し、「東アジアの奇跡」がもたらした地球環境への影響について、基礎的な実証研究と方法的考察を進め、関連するデータを提供することによって、現代環境経済史とでも呼ぶべき新しい領域の開拓に貢献することである。

３．研究の方法

方法的な研究では、グローバル COE から継承した「生存基盤論」の進化を目指して、内外で研究交流、意見交換を行い、環境問題の知見と経済史の方法の融合を試みる。実証面では、主として貿易データを加工することによって本テーマにとって基礎的な歴史的事実を確認するとともに、資源制約の発生、克服のメカニズムについて検討する。同時に、研究分担者による産業史、産業政策史、貿易史、エネルギー政策史、バイオマス社会史などと連携しつつ、新分野の形成を図る。

４．研究成果

（１）グローバル COE の成果（論文(9)：図書：(18)-(21)）を踏まえ、杉原研究室において関連統計を加工、分析し、環境指標（学会発表(31), (32): 図書(1), (3)）、貿易統計（学会発表(30): 図書(7), (8)）について、その成果の一部を刊行した。前者では生存基盤指数の具体的な指標を、インドを事例として多面的に示した。後者では、世界の第一次産品貿易における「土地・バイオマス起源の食料・原料」から「化石資源・鉱物資源」への品目構成の急速な移行、および第二次大戦後のアジア太平洋経済圏の変動についての大きな見取り図を示し、あわせて戦後アジアの開発主義と開発主義的国際秩序の性格を論じた。

（２）石川、杉原は、熱帯（主として東南アジア、特にスマトラ・リアウとマレーシア・サラワク）のバイオマス社会における第一次産品輸出経済の構造と歴史を検討し、輸出産品の激変と現地社会の環境との関わりを論じた（学会発表(1), (10), (15), (16), (22)-(24), (37): 図書(23), (24), (31)）。また、生存基盤論の発展として、住民の生存動機に注目し、グローバルな環境保全の動きや国家の統治動機、多国籍企業の利潤動機と並んで、生存動機がローカルな発展径路を強く規定していることを示唆した。

（３）杉原は、地球環境の持続性に関する国際イニシアティブである Future Earth の活動に関わり、本研究の問題提起とその内容を、とくにモンスーン・アジアの環境的特徴と関連づけて論じた（論文(1), (2)：学会発表(3)-(6)）。その一部、特にローカルな資源制約の克服の歴史については *Cambridge World History* に掲載される論文（2015 年 5 月刊行）で論じた。バイオマス資源の開発、森林伐採、環境劣化への各国・地域の対応は、歴史的にも貿易レジームの開放性と密接に関係していたと考えられる。

（４）小堀は、主著で展開した日本におけるエネルギー節約型技術の発展についての研究を踏まえ、戦後の資源・エネルギー開発政策を精力的に追究し、資源制約の克服の仕方が経済発展径路を決めるのではないかという本研究の構想に大きな影響を与えた（論文(7), (12), (15): 学界発表(13), (25)-(28), (38): 図書(17), (32)）。また、その他のアジア地域の資源・エネルギー戦略の性格を理解する場合にも、日本のエネルギー節約型技術の影響が重要であることがわかった。

（５）久保、岡崎、籠谷は、産業史、産業政策史、貿易史について業績を上げる（論文(5), (6): 学界発表(9), (11), (17), (20): 図書(13), (15), (27)-(30)）とともに、本研究の活動に参加し、それぞれ中国、日本の経済史とアジア

国際経済史につき、関連する知見を提供した。

（６）労働集約型工業化についての研究（図書(9)-(11)）が国際的に注目されていることもあって、本研究の参加者は、英語圏で頻繁に成果を発表した。今後、本研究の成果が国際的にさらに議論されることが期待される。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

(1) 杉原薫、「フューチャー・アースと人文・社会科学の再構成」『学術の動向』、査読無、19 巻 10 号、2014、91-93。
(2) 杉原薫、「問題提起：アジアから見た地球環境の持続性」『学術の動向』、査読無、19 巻 10 号、2014、64-65。
(3) Kaoru Sugihara, “La voie Est-Asiatique du developpement: Entretien avec K. Sugihara”, Interview with Xavier de la Vega, in Renaud Chartoire ed., *Dix questions sur le Capialisme aujourd’hui,* Auxerre: Sciences Humaines Editions, 査読無, 2014, 183-187.
(4) 岡崎哲二、「三菱商事における店舗ネットワークの構造と機能」、『三菱史料館論集』、査読無、第 15 号、2014、155-171。
(5) Tetsuji Okazaki, “Productivity Change and Mine Dynamics: The Coal Industry in Japan during World War II,” *Jahrbuch fuer Wirtschaft Geschichte*, 査読有, 2014/2, 2014, 31-48.
(6) Yutaka Arimoto, Kentaro Nakajima and Tetsuji Okazaki, “Sources of productivity improvement in industrial clusters: The case of the prewar Japanese silk-reeling industry," *Regional Science and Urban Economics*, 査読有, 2014, 46: 27-41.
(7) 小堀聡、「1950 年代日本における国内資源開発主義の軌跡：安藝皎一と大来佐武郎に注目して」、『大阪大学経済学』、査読無、64 巻 2 号、2014、123-144。
(8) 小堀聡、通商産業政策史編纂委員会編／橘川武郎著『通商産業政策史 10　資源エネルギー政策』、大阪大学経済学、査読無、2014、第 63 巻第 4 号、90-94。
(9) Kaoru Sugihara, “Sustainable Humanosphere in Global History”, *The Newsletter*, IIAS(International Institute for Asian Studies, Leiden, 査読無、No.66, 2013, 26-27.
(10) Kaoru Sugihara and Tomotaka Kawamura, “Introduction”(for Special Focus “Reconstructing Intra-Southeast Asian Trade, c.1780-1870: Evidence from Regional Integration under the Regime of Colonial Free Trade”), *Southeast Asian Studies*, 査読有, Vol.2, No.3, 2013, 437-441.
(11) 杉原薫、「世界貿易史における『長期の１９世紀』」『社会経済史学』、査読有、79 巻 3 号、2013、3-28。
(12) 小堀聡、島西智輝、「日本石炭産業の戦後史—市場構造変化と企業行動」、『社会経済史学』、査読無、2013、第 79 巻第 1 号、123-125。
(13) Kaoru Sugihara, “Economic Relations between India and Japan: Past and Present”, *FPRC Journal*, Foreign Policy Research Center, New Delhi, 査読無, 2012, 12(4), 17-20.
(14) 杉原薫、「『ヨーロッパの奇跡』再考－「大分岐」論争とその後－」、『経済セミナー』、査読無、2012、8・9 号、42-46。
(15) 小堀聡、「臨海工業地帯の誕生と普及—土木技術者鈴木雅次の軌跡　一九二〇－一九七〇」、『ノートル・クリティーク』、査読有、2012、5 号、2-30。

〔学会発表〕（計 38 件）

(1) Noboru Ishikawa, From Cleavage to Interface: Riverine Catchment and Social Formation in Maritime Southeast Asia, for a panel “Rethinking the Hill-Plain divide: Putting Geophysical and Mental Landscapes of Southeast Asia to Good Use”, Annual Conference, Association of Asian Studies (Chicago, USA), 26 -29th March, 2015.
(2) 小堀聡、「国内資源開発から国内資源放棄へ—安藝皎一と大来佐武郎の場合」第 17 回高度成長史研究例会（招聘講演）、同志社大学人文科学研究所（京都府京都市）、2014 年 12 月 16 日。
(3) Kaoru Sugihara, “(Keynote address) The South Asian Path of Economic Development in Global History”, Joint Conference on ‘Perspectives, Dialogues and Challenges: India, Japan and the Making of Modern Asia’, organized by Shiv Nadar University (SNU) and Contemporary India Area Studies (INDAS), India Habitat Centre (New Delhi, India), 13th December 2014.
(4) Naoto Kagotani, “Japan’s Commercial Penetration in Southeast Asia and the Cotton Trade Negotiations in the 1930s: Maintaining Relations between Japan and the Dutch East Indies”, Urban Development and Social Integration: Long Term Perspectives, Universitas Indonesia, Dean’s Building, Depok, Indonesia, 14th November 2014.
(5) 久保亨、「近幾年来在日本的近代中国金融史研究動向」銀行家与上海金融変遷和転型シンポジウム、復旦大学（中国上海市）、2014 年 10 月 21 日。
(6) Noboru Ishikawa, Anthropogenic Tropical Forests: Human-Nature Interactions of the Riverine Societies in Sarawak, Malaysia, University of Zurich URPP (University Research Priority Programs on Globalization and Biodiversity) (Zurich, Switzerland), 10-12th October 2014, 招聘講演.

(7) Kaoru Sugihara, "Environmental Sustainability for the Asian Path of Economic Development: A Long-term Perspective", The 2014 Pierre du Bois Conference 'Economic Development in the Anthropocene: Perspectives on Asia and Africa', Graduate Institute of International and Development Studies (Geneva, Switzerland), 26th September 2014.

(8) 久保亨「華北地域概念的形成和日本」明清以来華北区域市場的演変ワークショップ、天津社会科学院（中国天津市）、2014 年 9 月 13 日。

(9) Kaoru Sugihara, "The Sustainability Path in Asia: A Global Agenda", International Conference on Science and Technology for Sustainability 2014 'Transdisciplinarity for Global Sustainability: Strategies for Research and Capacity Building', Science Council of Japan (Minato-ku, Tokyo), 18th July 2014.

(10) 籠谷直人、「戦前の日本製綿布・人絹布のインド市場での受容」社会経済史学第 83 回全国大会　パネル「20 世紀前半におけるインド社会経済の変容と日印貿易関係」、　同志社大学（京都府京都市）、2014 年 5 月 25 日。

(11) Tetsuji Okazaki, "When did Japan Overtake India: Lessons from Cotton Mills" (with Bishnupiria Gupta), Economic History Society Conference, University of Warwick (U.K.), 29th March 2014.

(12) 小堀聡、「高度成長と日本のエネルギー問題」、公開シンポジウム「日本と中東 日本と石油」、京都大学（京都府京都市）、2014 年 2 月 23 日。

(13) Kaoru Sugihara, "(Keynote presentation) The Asian Approach to Global Sustainability: A Perspective from Economic History", the Second International Workshop on Future Earth in Asia（招待講演）, Kyoto Royal Hotel (Kyoto), 4th February 2014.

(14) 杉原薫、「アジアから見た地球環境の持続性」日本学術会議主催　学術フォーラム「アジアの経済発展と地球環境の将来－人文・社会科学からのメッセージ－」、日本学術会議講堂（東京都港区）、2014 年 1 月 11 日。

(15) Naoto Kagotani, "Opening of the Port of Kobe in the 19th Century", 東亜海洋史研討会：亜洲国際通商秩序和中国商人、厦門大学（中国厦門）、2013 年 12 月 24 日。

(16) 小堀聡、「日本の原子力史にかんする資料紹介：原子力政策研究会資料を中心に（その２）」、国際資源問題研究会、関西大学（大阪府吹田市）、2013 年 12 月 15 日。

(17) 籠谷直人、「植民地期台湾の日本関係資料」、PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013 NIHU's Activity on Research and Resource Sharing of Humanitie（人間文化研究資源の調査と情報化）、京都大学（京都府京都市）、2013 年 12 月 12 日。

(18) 久保亨、「1950 年代の中国経済と日中関係」、シンポジウム人民共和国史――今どこまで解明されるのか、京都大学人文科学研究所（京都府京都市）、2013 年 12 月 7 日。

(19) Noboru Ishikawa, "Global Timber Connections: A Critical Look at Forests in Japan and Southeast Asia", American Anthropological Association, Chicago, Illinoi, USA, 20th November 2013.

(20) Noboru Ishikawa, "Anomalous Equilibrium? Underutilization and Overexploitation of Forests in Japan and Southeast Asia", Anomie in Asia Workshop (organized by CSEAS Kyoto University / Department of Sociology and Anthropology, University of Amsterdam), Kyoto, Japan, 17th November 2013.

(21) 久保亨、「蘇俄在戦時中国: 重慶国民政府経済専家眼中的蘇連経済」、国共関係与中日戦争国際研討会、中央研究院近代史研究所（中国台北）、2013 年 11 月 1-3 日。

(22) 久保亨、「戦時中国的工業発展」、第二次世界大戦背景下的中日戦争:中日戦争国際共同研究第五次会議、西南大学（中国重慶）2013 年 9 月 14-15 日。

(23) 小堀聡、「日本のエネルギー革命：1920-1960」、環境政策史研究会、名城大学（愛知県名古屋市）、2013 年 9 月 6 日。

(24) 小堀聡、「日本の原子力史にかんする資料紹介：原子力政策研究会資料を中心に」、国際資源問題研究会、愛知県立大学（愛知県長久手市）、2013 年 8 月 9 日。

(25) Noboru Ishikawa, "Human-Space Relations in Biomass Society: A Case from Central Borneo", School of Humanities and Social Sciences, Nanyang Technological University (Singapore), 11th March 2013.

(26) 小堀聡、「原子力政策黎明期における『対米依存』の論理—経済企画庁原子力室阿部滋忠に注目して」、戦前・戦時日本研究会、追手門学院大学（大阪府茨木市）、2013 年 2 月 23 日。

(27) 杉原薫、「熱帯バイオマス社会の基本構造－4 つの動機をめぐって－」、基盤 S「東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究」全体研究会、京都大学東南アジア研究所（京都府京都市）、2013 年 1 月 26 日。

(28) 杉原薫、「東南アジア第一次産品輸出経済の発展－二世紀の歩みとサラワク－」、基盤 S「東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究」、共同利用・共同研究拠点「東南アジア交易史における『長期の１９世紀』」合同研究会、京都大学東南アジア研究所（京都府京都市）、2013 年 1 月 13 日。

(29) Noboru Ishikawa, "Rethinking "Migration": Watershed-Riverine Networks and Social Formation in Sarawak", Inaugural Workshop

on Borneo Studies: The State-of-the Art and Future Directions, Institute of Asian Studies, University of Brunei Darussalam (Brunei Darussalam), 30th November 2012.

(30) Noboru Ishikawa, "Resilience or Regime Shift?: Human-Nature Interactions in Equatorial Plantation Forests", Environment and Sustainability Research Cluster, School of Humanities and Social Sciences, Nanyang Technological University (Singapore), 26th November 2012.

(31) Kaoru Sugihara, "The Pacific Economy since 1800", Conference on 'Pacific Histories: Ocean, Land, People', **招待講演**, Harvard University (Cambridge, U.S.), 16th November 2012.

(32) **杉原薫**、**「『化石資源世界経済』の興隆とバイオマス社会の過去・現在・未来」、第210回生存圏シンポジウム・生存圏フォーラム特別講演会、京都大学宇治キャンパス・おうばくプラザ（京都府宇治市）**、2012**年**9**月**8**日。**

(33) Kaoru Sugihara, "Japan and East Asia in the Development of Economic History", XVIth World Economic History Congress, Stellenbosch University (Stellenbosch, South Africa), 12th July 2012.

(34) Kaoru Sugihara, "Developmentalism with Regional Dynamics: Factor Endowment, Industrial Policy and the Quality of Labour in Asia, c.1950-2000", XVIth World Economic History Congress, Stellenbosch University (Stellenbosch, South Africa), 12th July 2012.

(35) Kaoru Sugihara, "The Cold War Regime and the Recovery of Asian Regional Economic Heritage: Comments on 'the Historical Origins of East Asian Resurgence: Economic Nationalism, Developmentalism and the International Order of Asia'", XVIth World Economic History Congress, Stellenbosch University (Stellenbosch, South Africa), 10th July 2012.

(36) Toru Kubo, "The Compound Development of the East Asian Cotton Industry in the Context of Global History, 1940s-1960s", XVIth World Economic History Congress, Stellenbosch University (Stellenbosch, South Africa), 10th July 2012.

(37) **小堀聡**、**「日本における資源・エネルギー構想の変遷　1945-1960—安藝皎一と大来佐武郎を軸に」、同時代史学会、立教大学（東京都豊島区）**、2012**年**7**月**7**日。**

(38) Naoto Kagotani, "Merchants'Communities in Early Modern Asia: Toward a Comparative Institutional Perspective: Introduction", XVIth World Economic History Congress, Stellenbosch University (Stellenbosch, South Africa), 4th July 2012.

〔図書〕（計32件）

(1) **佐藤孝弘・山田祐樹久・杉原薫、政策研究大学院大学政策研究センター　リサーチ・プロジェクト、「主題図からみた現代インドの生存基盤－新たな持続可能性指標の開発に向けて」**、2015、69。

(2) **杉原薫、東京大学出版会、「植民地期における国内市場の成立」、田辺明生・杉原薫・脇村孝平編『シリーズ現代インド１　多様性社会の挑戦』**、2015、197-221。

(3) **佐藤孝宏・杉原薫、東京大学出版会、「環境の多様性と文化の多様性」、田辺明生・杉原薫・脇村孝平編『シリーズ現代インド１　多様性社会の挑戦』**、2015、39-60。

(4) **田辺明生・杉原薫・脇村孝平編、東京大学出版会、『シリーズ現代インド１　多様性社会の挑戦』**、2015、392。

(5) **久保亨、日本経済評論社、「外国経営史、中国」経営史学会編『経営史学の**50**年』**、2015、420（360-367）.

(6) **謝国興、鍾淑敏、籠谷直人、王麗蕉共編、中央研究院台湾史研究所・京都大学人文科学研究所、『茶苦来山人の逸話：三好徳三郎的台湾記憶』**、2015、537。

(7) Kaoru Sugihara, Palgrave, Basingstoke, "The Economy since 1800", in David Armitage and Alison Bashford eds, *Pacific Histories: Ocean, Land, People*, 2013, 166-190, 347-348.

(8) **杉原薫、ミネルヴァ書房、「戦後アジアにおける工業化型国際経済秩序の形成」、秋田茂編『アジアからみたグローバルヒストリー－「長期の**18**世紀」から「東アジアの経済的復興」へ－』**、2013、283-307。

(9) Gareth Austin and Kaoru Sugihara eds., Routledge, London, *Labour-intensive Industrialization in Global History*, 2013, 328.

(10) Gareth Austin and Kaoru Sugihara, Routledge, "Introduction", in Gareth Austin and Kaoru Sugihara eds., *Labour-intensive Industrial- ization in Global History*, 2013, 328 (1-19).

(11) Kaoru Sugihara, Routledge, "Labour-intensive Industrialization in Global History: An Interpretation of East Asian Experiences", in Gareth Austin and Kaoru Sugihara eds., *Labour-intensive Industrialization in Global History*, 2013, 328 (20-64).

(12) **本庄比佐子・内山雅生・久保亨編、東洋文庫、『華北の発見』**、2013、355。

(13) **久保亨、ミネルヴァ書房、「戦後東アジア綿業の複合的発展」、秋田茂編『アジアからみたグローバルヒストリー』**、2013、258-282。

(14) **久保亨、国史館「近代中国経済政策与経済発展,** 1930-1960**年代」、呉淑鳳他編『近代国家的型塑：中華民国建国**100**年国際学術討論会論文集』**、2013、285-304。

(15) **岡崎哲二他編、日本経済新聞社、『エコノミストの戦後史』**、2013、677。

(16) 祖田亮二・石川登 、大津：海青社「『狩猟採集民』と森林の商品化：ボルネオ北部プナンの戦略的資源利用」、横山智編『資源と生業の地理学』、2013、137-164。（査読有）
(17) 小堀聡、名古屋大学出版会「転換の 1930 年代～60 年代：統制経済をはさんだ経済成長」、「高度成長と公害」中西聡編『日本経済の歴史—列島経済史入門』、2013、364（233-277、274-275）。
(18) 杉原薫・脇村孝平・藤田幸一・田辺明生共編、京都大学学術出版会、『講座　生存基盤論　第 1 巻　歴史のなかの熱帯生存圏—温帯パラダイムを超えて—』、2012、536。
(19) 杉原薫、京都大学学術出版会、「熱帯生存圏の歴史的射程」、杉原薫・脇村孝平・藤田幸一・田辺明生共編『講座　生存基盤論　第 1 巻　歴史のなかの熱帯生存圏—温帯パラダイムを超えて—』、2012、536（1-28）。
(20) 杉原薫、京都大学学術出版会、「『化石資源世界経済』の興隆とバイオマス社会の再編」杉原薫・脇村孝平・藤田幸一・田辺明生共編『講座　生存基盤論　第 1 巻　歴史のなかの熱帯生存圏—温帯パラダイムを超えて—』、2012、536（149-184）。
(21) 杉原薫、京都大学学術出版会、（翻訳）「K. ポメランツ　大ヒマラヤ分水界－中国、インド、東南アジアの水不足、巨大プロジェクト、環境政治－」（甲山治、石坂晋哉と共訳）杉原薫・脇村孝平・藤田幸一・田辺明生編『講座　生存基盤論　第 1 巻　歴史のなかの熱帯生存圏－温帯パラダイムを超えて－』、2012、536（215-266）。
(22) Somboon Siriprachai, edited by Kaoru Sugihara, Pasuk Phongpaichit and Chris Baker, NUS Press, Singapore, *Industrialization with a Weak State: Thailand's Development in Historical Perspective*, 2012, 183.
(23) 杉原薫、京都大学学術出版会、「泥炭湿地の社会経済史－交易から土地開発、そして保全へ－」(増田和也・水野広祐と共著)」川井秀一・水野広祐・藤田素子編『講座　生存基盤論　第４巻　熱帯バイオマス社会の再生－インドネシアの泥炭湿地から－』、2012、360（129-165）。
(24) 杉原薫、京都大学学術出版会、「熱帯バイオマス社会の再生に向けて」（藤田素子など 10 名と共著）川井秀一・水野広祐・藤田素子編『講座　生存基盤論　第４巻　熱帯バイオマス社会の再生－インドネシアの泥炭湿地から－』、2012、360（395-408）。
(25) Kaoru Sugihara, Oxford University Press, Oxford, "The European Miracle in Global History: An East Asian Perspective", in Maxine Berg ed., *Writing of the History of the Global: Challenges for the 21st Century*, 2012, 214 (129-144).
(26) 杉原薫、京都大学学術出版会、（項目）「持続型生存基盤研究－歴史と方法」「地表から生存圏へ」「生産から生存へ」「発展径路」「技術」「工業化」「労働」「自由貿易」「開発主義」「グローバル化」の１０項目を執筆、東長靖・石坂晋哉編『講座　生存基盤論　第６巻　持続型生存基盤論ハンドブック』、2012、534（合計 29 頁）。
(27) 久保亨、有斐閣、「地域〔Ｉ〕中国」『社会経済史学の課題と展望：社会経済史学会創立 80 周年記念』、2012、434（238-248）。
(28) 久保亨、東京大学出版会、『中国経済史入門』、2012、324。
(29) 岡崎哲二、経済産業調査会、『通商産業政策史 3 産業政策』、2012、599。
(30) 籠谷直人、有斐閣、「帝国と商人ネットワーク」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望—社会経済史学会創立 80 周年記念』、2012、440（276-292）。
(31) 石川登、祖田亮次、鮫島弘光、京都大学学術出版会、「熱帯バイオマス社会の複雑系 —自然の時間、人の時間—」河野泰之他編『地球圏・生命圏の潜在力：熱帯地域の生存基盤』、2012、352（283-315）。
(32) 小堀聡、有斐閣、「二つのエネルギー革命をめぐって」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望—社会経済史学会創立 80 周年記念』、2012、440（196-206）。

６．研究組織

(1)研究代表者

杉原　薫（SUGIHARA, Kaoru）
政策研究大学院大学・政策研究科・特別教授
研究者番号：60117950

(2)研究分担者

久保　亨（KUBO, Toru）
信州大学・人文学部・教授
研究者番号： 10143520

岡崎　哲二（OKAZAKI, Tetsuji）
東京大学・経済学研究科（研究院）・教授
研究者番号：90183029

籠谷　直人（KAGOTANI, Naoto）
京都大学・地球環境学堂・教授
研究者番号：70185734

石川　登（ISHIKAWA, Noboru）
京都大学・東南アジア研究所・教授
研究者番号：50273503

小堀聡（KOBORI, Satoru）
名古屋大学・経済学研究科（研究院）・准教授
研究者番号：90456583